

離散数理工学 第4回  
数え上げの基礎：漸化式の解き方（発展）

岡本 吉央  
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2017年11月7日

最終更新：2017年11月6日 08:16

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 1 / 63

スケジュール 後半（予定）

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| ⑧ 離散確率論：確率の復習と確率不等式        | (12/5)  |
| * 中間試験                     | (12/12) |
| ⑨ 離散確率論：確率的離散システムの解析       | (12/19) |
| ⑩ 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム（基礎） | (1/9)   |
| ⑪ 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム（発展） | (1/16)  |
| ⑫ 離散確率論：マルコフ連鎖（基礎）         | (1/23)  |
| ⑬ 離散確率論：マルコフ連鎖（発展）         | (1/30)  |
| * 予備日                      | (2/6)   |
| * 期末試験                     | (2/13?) |

注意：予定の変更もありうる

スケジュール 前半（予定）

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| ① 数え上げの基礎：二項係数と二項定理   | (10/3)  |
| ② 数え上げの基礎：漸化式の立て方     | (10/10) |
| * 休講（体育祭）             | (10/17) |
| ③ 数え上げの基礎：漸化式の解き方（基礎） | (10/24) |
| * 休講（出張）              | (10/31) |
| ④ 数え上げの基礎：漸化式の解き方（発展） | (11/7)  |
| ⑤ 離散代数：対称群と置換群        | (11/14) |
| ⑥ 離散代数：有限群            | (11/21) |
| ⑦ 離散代数：有限群の応用         | (11/28) |

注意：予定の変更もありうる

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 2 / 63

今日の目標

今日の目標

- 母関数を用いて漸化式を解けるようになる
- ▶ 線形漸化式の解法
  - ▶ より複雑な漸化式の解法
  - ▶ カタラン数

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 3 / 63

母関数（復習）

- ① 母関数（復習）
- ② 線形漸化式の厳密解法
- ③ より複雑な漸化式の解法
- ④ カタラン数：定義と導出
- ⑤ カタラン数：組合せ的解釈
- ⑥ 今日のまとめ

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 5 / 63

代表的な数列の母関数

数列 $a_0, a_1, a_2, a_3, \dots$	一般項 $a_n$	母関数 $A(x)$
1, 1, 1, 1, ...	1	$\frac{1}{1-x}$
1, 2, 4, 8, ...	$2^n$	$\frac{1}{1-2x}$
$1, \alpha, \alpha^2, \alpha^3, \dots$	$\alpha^n$	$\frac{1}{1-\alpha x}$
0, 1, 2, 3, ...	$n$	$\frac{x}{(1-x)^2}$

母関数（復習）

数列  $a_0, a_1, a_2, a_3, a_4, \dots$  の母関数とは冪級数

$$\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$$

のこと ( $x$  は複素数)

仮定

この冪級数は収束する

- ▶ 特に、ある定数  $r > 0$  が存在して  $|x| < r$  のとき収束するとする
- ▶ つまり、 $|x| < r$  のとき、 $x \mapsto \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  は well-defined

収束するので、『微分積分学』、『解析学』、『複素関数論』の知識が使える

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 6 / 63

線形漸化式の厳密解法

目次

- ① 母関数（復習）

- ② 線形漸化式の厳密解法

- ③ より複雑な漸化式の解法

- ④ カタラン数：定義と導出

- ⑤ カタラン数：組合せ的解釈

- ⑥ 今日のまとめ

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 7 / 63

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2017年11月7日 8 / 63

$a_n = \text{グラフ } P_n \text{ における独立集合の総数} \text{ とする}$

## 漸化式

$$a_n = \begin{cases} 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 3 & (n=2 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 3 \text{ のとき}) \end{cases}$$

これを解いてみる

- ▶ 特性方程式を用いた方法(前回)
- ▶ 行列を用いた方法(前回)
- ▶ 母関数を用いた方法(今回)

## 母関数を用いた漸化式の解法

1 両辺に  $x^n$  を掛けて、級数を作る

$n \geq 2$  のとき

$$\begin{aligned} a_n &= a_{n-1} + a_{n-2} \\ \therefore a_n x^n &= a_{n-1} x^n + a_{n-2} x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n=2}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-1} x^n + \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-2} x^n$$

母関数を  $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  と書くことにする

## 母関数を用いた漸化式の解法

3 得られた式を  $A(x)$  に関して解く

$$\begin{aligned} A(x) - 1 - 2x &= xA(x) - x + x^2 A(x) \\ \therefore (x^2 + x - 1)A(x) &= -x - 1 \\ \therefore A(x) &= -\frac{x+1}{x^2+x-1} \end{aligned}$$

$A(x)$  を  $x$  の有理関数として表現できた

## 母関数を用いた漸化式の解法

$$\begin{aligned} -\frac{x+1}{x^2+x-1} &= \frac{a}{x-\frac{-1+\sqrt{5}}{2}} + \frac{b}{x-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}} \\ \therefore -(x+1) &= a\left(x-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}\right) + b\left(x-\frac{-1+\sqrt{5}}{2}\right) \\ \therefore -x-1 &= (a+b)x + \left(-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}a - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}b\right) \end{aligned}$$

したがって、

$$\begin{aligned} -1 &= a+b \text{ かつ} \\ -1 &= -\frac{-1-\sqrt{5}}{2}a - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}b \end{aligned}$$

これを  $a, b$  に関して解くと

$$a = \frac{-5-\sqrt{5}}{10}, \quad b = \frac{-5+\sqrt{5}}{10}$$

0  $a_0$  を便宜上定める

## 漸化式

$$a_n = \begin{cases} 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 3 & (n=2 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 3 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$a_0 = 1$  とする

- ▶ このとき、  $a_2 = 3 = 2 + 1 = a_1 + a_0$
- ▶ つまり、上の漸化式は  $n \geq 2$  において成立

## 書き換えた漸化式

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

## 母関数を用いた漸化式の解法

2 各辺を  $A(x)$  によって表す

$$\begin{aligned} \sum_{n=2}^{\infty} a_n x^n &= \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-1} x^n + \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-2} x^n \\ \text{左辺} &= \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n - a_0 - a_1 x = A(x) - 1 - 2x \\ \text{右辺} &= \sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{n+1} + \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^{n+2} \\ &= x \left( \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n - a_0 \right) + x^2 \left( \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right) \\ &= xA(x) - x + x^2 A(x) \end{aligned}$$

## 母関数を用いた漸化式の解法

3 得られた  $A(x)$  の級数展開を導く

$$A(x) = -\frac{x+1}{x^2+x-1}$$

このとき、 $-\frac{x+1}{x^2+x-1}$  の部分分数分解が必要

- ▶ 「分母 = 0」を  $x$  について解くと、 $x = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}$  となる
- ▶ したがって、ある定数  $a, b$  が存在して

$$-\frac{x+1}{x^2+x-1} = \frac{a}{x - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}} + \frac{b}{x - \frac{-1-\sqrt{5}}{2}}$$

- ▶ この  $a, b$  を定める(次のページ)

## 母関数を用いた漸化式の解法

したがって、

$$\begin{aligned} A(x) &= -\frac{x+1}{x^2+x-1} = -\frac{5+\sqrt{5}}{10} \frac{1}{x - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}} - \frac{5-\sqrt{5}}{10} \frac{1}{x - \frac{-1-\sqrt{5}}{2}} \\ &= \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \frac{1}{1 - \frac{\sqrt{5}+1}{2}x} + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \frac{1}{1 - \frac{\sqrt{5}-1}{2}x} \\ &= \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \sum_{n=0}^{\infty} \left( \frac{\sqrt{5}+1}{2} \right)^n x^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \sum_{n=0}^{\infty} \left( \frac{\sqrt{5}-1}{2} \right)^n x^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \left( \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \left( \frac{\sqrt{5}+1}{2} \right)^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \left( \frac{\sqrt{5}-1}{2} \right)^n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって、任意の  $n \geq 0$  に対して、

$$a_n = \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \left( \frac{\sqrt{5}+1}{2} \right)^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \left( \frac{\sqrt{5}-1}{2} \right)^n$$

## 母関数を用いた漸化式の解法

$$\begin{aligned} -1 &= a+b \text{ かつ} \\ -1 &= -\frac{-1-\sqrt{5}}{2}a - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}b \end{aligned}$$

これを  $a, b$  に関して解くと

$$a = \frac{-5-\sqrt{5}}{10}, \quad b = \frac{-5+\sqrt{5}}{10}$$

## 目次

① 母関数 (復習)

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数 : 定義と導出

⑤ カタラン数 : 組合せ的解釈

⑥ 今日のまとめ

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 17 / 63

## 例題1：直感を得る

## 例題1

$$a_n = \begin{cases} 3 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

- ▶  $a_1 = 3$
- ▶  $a_2 = 4a_1 - 3^{2-1} = 4 \cdot 3 - 3^1 = 12 - 3 = 9$
- ▶  $a_3 = 4a_2 - 3^{3-1} = 4 \cdot 9 - 3^2 = 36 - 9 = 27$
- ▶  $a_4 = 4a_3 - 3^{4-1} = 4 \cdot 27 - 3^3 = 108 - 27 = 81$
- ▶ ...

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 19 / 63

## 例題1：母関数を用いた解法 Step 1

1 両辺に  $x^n$  を掛けて、級数を作る $n \geq 1$  のとき

$$\begin{aligned} a_n &= 4a_{n-1} - 3^{n-1} \\ \therefore a_n x^n &= 4a_{n-1} x^n - 3^{n-1} x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n \geq 1} a_n x^n = \sum_{n \geq 1} 4a_{n-1} x^n - \sum_{n \geq 1} 3^{n-1} x^n$$

母関数を  $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  と書くことにする

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 21 / 63

## 例題1：母関数を用いた解法 Step 3

3 得られた式を  $A(x)$  に関して解く

$$\begin{aligned} A(x) - 1 &= 4xA(x) - \frac{x}{1-3x} \\ \therefore (1-4x)A(x) &= 1 - \frac{x}{1-3x} \\ \therefore A(x) &= \frac{1}{1-4x} - \frac{x}{(1-3x)(1-4x)} \\ &= \frac{1-3x}{(1-3x)(1-4x)} - \frac{x}{(1-3x)(1-4x)} \\ &= \frac{1-4x}{(1-3x)(1-4x)} = \frac{1}{1-3x} \end{aligned}$$

 $A(x)$  を  $x$  の有理関数として表現できた

## 例題1

$$a_n = \begin{cases} 3 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

これを解いてみる

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 23 / 63

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 24 / 63

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 18 / 63

## 例題1：母関数を用いた解法 Step 0

0  $a_0$  を便宜上定める

## 例題1

$$a_n = \begin{cases} 3 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

 $a_0 = 1$  とする

- ▶ このとき、 $a_1 = 3 = 4 \cdot 1 - 1 = 4a_0 - 3^0 = 4a_1 - 3^{1-1}$
- したがって、考えている漸化式は次のように書き換えられる

## 例題1：書き換えた漸化式

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 20 / 63

## 例題1：母関数を用いた解法 Step 2

2 各辺を  $A(x)$  によって表す

$$\begin{aligned} \sum_{n \geq 1} a_n x^n &= \sum_{n \geq 1} 4a_{n-1} x^n - \sum_{n \geq 1} 3^{n-1} x^n \\ \text{左辺} &= \sum_{n \geq 0} a_n x^n - a_0 = A(x) - 1 \\ \text{右辺} &= \sum_{n \geq 0} 4a_n x^{n+1} - \sum_{n \geq 0} 3^n x^{n+1} \\ &= 4x \sum_{n \geq 0} a_n x^n - x \sum_{n \geq 0} (3x)^n \\ &= 4xA(x) - \frac{x}{1-3x} \end{aligned}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 22 / 63

## 例題1：母関数を用いた解法 Step 4

4 得られた  $A(x)$  の級数展開を導く

$$A(x) = \frac{1}{1-3x}$$

したがって、

$$A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} 3^n x^n$$

したがって、任意の  $n \geq 0$  に対して

$$a_n = 3^n$$

□

## 例題 2

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 3a_{n-1} + 2n & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

これを解いてみる

## 例題 2 : 直感を得る

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 3a_{n-1} + 2n & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

- ▶  $a_0 = 1$
- ▶  $a_1 = 3a_0 + 2 \cdot 1 = 3 \cdot 1 + 2 \cdot 1 = 5$
- ▶  $a_2 = 3a_1 + 2 \cdot 2 = 3 \cdot 5 + 2 \cdot 2 = 19$
- ▶  $a_3 = 3a_2 + 2 \cdot 3 = 3 \cdot 19 + 2 \cdot 3 = 63$
- ▶  $a_4 = 3a_3 + 2 \cdot 4 = 3 \cdot 63 + 2 \cdot 4 = 197$
- ▶ ...

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 1

① 両辺に  $x^n$  を掛けて、級数を作る

$n \geq 1$  のとき

$$\begin{aligned} a_n &= 3a_{n-1} + 2n \\ \therefore a_n x^n &= 3a_{n-1} x^n + 2n x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n \geq 1} a_n x^n = \sum_{n \geq 1} 3a_{n-1} x^n + \sum_{n \geq 1} 2n x^n$$

母関数を  $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  と書くこととする

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 2 (続き)

## 右辺の整理 (続き)

$$\begin{aligned} \text{右辺} &= 3x \sum_{n \geq 0} a_n x^n + 2x \sum_{n \geq 0} n x^n + 2x \sum_{n \geq 0} x^n \\ &= 3x A(x) + 2x \frac{x}{(1-x)^2} + 2x \frac{1}{1-x} \\ &= 3x A(x) + \frac{2x^2}{(1-x)^2} + \frac{2x(1-x)}{(1-x)^2} \\ &= 3x A(x) + \frac{2x}{(1-x)^2} \end{aligned}$$

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 4

④ 得られた  $A(x)$  の級数展開を導く

$$A(x) = \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)}$$

部分分数分解を試みる、つまり

$$\frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} = \frac{a}{1-x} + \frac{bx}{(1-x)^2} + \frac{c}{1-3x}$$

となる  $a, b, c$  が一意に存在するので、それを定める (次のページ)

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 2

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 3a_{n-1} + 2n & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

- ▶  $a_0 = 1$
- ▶  $a_1 = 3a_0 + 2 \cdot 1 = 3 \cdot 1 + 2 \cdot 1 = 5$
- ▶  $a_2 = 3a_1 + 2 \cdot 2 = 3 \cdot 5 + 2 \cdot 2 = 19$
- ▶  $a_3 = 3a_2 + 2 \cdot 3 = 3 \cdot 19 + 2 \cdot 3 = 63$
- ▶  $a_4 = 3a_3 + 2 \cdot 4 = 3 \cdot 63 + 2 \cdot 4 = 197$
- ▶ ...

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 2

② 各辺を  $A(x)$  によって表す

$$\begin{aligned} \sum_{n \geq 1} a_n x^n &= \sum_{n \geq 1} 3a_{n-1} x^n + \sum_{n \geq 1} 2n x^n \\ \text{左辺} &= \sum_{n \geq 0} a_n x^n - a_0 = A(x) - 1 \\ \text{右辺} &= \sum_{n \geq 0} 3a_n x^{n+1} + \sum_{n \geq 0} (2n+2)x^{n+1} \\ &= 3x \sum_{n \geq 0} a_n x^n + 2x \sum_{n \geq 0} nx^n + 2x \sum_{n \geq 0} x^n \end{aligned}$$

## 例題 2 : 母関数を用いた解法 Step 3

③ 得られた式を  $A(x)$  に関して解く

$$\begin{aligned} A(x) - 1 &= 3x A(x) + \frac{2x}{(1-x)^2} \\ \therefore (1-3x)A(x) &= 1 + \frac{2x}{(1-x)^2} \\ \therefore A(x) &= \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} \end{aligned}$$

$A(x)$  を  $x$  の有理関数として表現できた

## 例題 1 : 母関数を用いた解法 Step 4 — 部分分数分解

$$\begin{aligned} \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} &= \frac{a}{1-x} + \frac{bx}{(1-x)^2} + \frac{c}{1-3x} \\ \therefore 2x &= a(1-x)(1-3x) + bx(1-3x) + c(1-x)^2 \\ &= a(1-4x+3x^2) + b(x-3x^2) + c(1-2x+x^2) \\ &= (3a-3b+c)x^2 + (-4a+b-2c)x + (a+c) \end{aligned}$$

したがって、

$$\begin{aligned} 0 &= 3a-3b+c && \text{かつ,} \\ 2 &= -4a+b-2c && \text{かつ,} \\ 0 &= a+c \end{aligned}$$

この方程式を解くと、次が得られる

$$a = -\frac{3}{2}, \quad b = -1, \quad c = \frac{3}{2}$$

したがって、

$$\begin{aligned} A(x) &= \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} \\ &= \frac{1}{1-3x} - \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-x} - \frac{x}{(1-x)^2} + \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-3x} \\ &= \frac{5}{2} \cdot \frac{1}{1-3x} - \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-x} - \frac{x}{(1-x)^2} \\ &= \frac{5}{2} \cdot \sum_{n=0}^{\infty} 3^n x^n - \frac{3}{2} \cdot \sum_{n=0}^{\infty} x^n - \sum_{n=0}^{\infty} nx^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \left( \frac{5}{2} \cdot 3^n - \frac{3}{2} - n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって、任意の  $n \geq 0$  に対して、 $a_n = \frac{5}{2} \cdot 3^n - n - \frac{3}{2}$

## ① 母関数 (復習)

## ② 線形漸化式の厳密解法

## ③ より複雑な漸化式の解法

## ④ カタラン数：定義と導出

## ⑤ カタラン数：組合せ的解釈

## ⑥ 今日のまとめ



カタラン  
(1814–1894)

<http://www-history.mcs.st-andrews.ac.uk/Biographies/Catalan.html>

## カタラン数とは？

次の漸化式で定められる数  $C_n$  を第  $n$  カタラン数と呼ぶ

$$C_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

## 例：

- ▶  $C_1 = C_0 C_0 = 1 \cdot 1 = 1$
- ▶  $C_2 = C_0 C_1 + C_1 C_0 = 1 \cdot 1 + 1 \cdot 1 = 2$
- ▶  $C_3 = C_0 C_2 + C_1 C_1 + C_2 C_0 = 1 \cdot 2 + 1 \cdot 1 + 2 \cdot 1 = 5$
- ▶  $C_4 = C_0 C_3 + C_1 C_2 + C_2 C_1 + C_3 C_0 = 1 \cdot 5 + 1 \cdot 2 + 2 \cdot 1 + 5 \cdot 1 = 14$

目標：第  $n$  カタラン数を表す式を母関数による方法で導く

1 両辺に  $x^n$  を掛けて、級数を作る

$n \geq 1$  のとき

$$\begin{aligned} C_n &= \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} \\ C_n x^n &= \left( \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} \right) x^n = x \sum_{i=0}^{n-1} (C_i C_{n-i-1} x^{n-1}) \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n=1}^{\infty} C_n x^n = \sum_{n=1}^{\infty} \left( x \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} x^{n-1} \right)$$

母関数を  $C(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^n$  と書くことにする

$$\begin{aligned} \text{右辺} &= x \sum_{n=0}^{\infty} \sum_{i=0}^n C_i C_{n-i} x^n \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{n=i}^{\infty} C_i C_{n-i} x^n \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{j=0}^{\infty} C_i C_j x^{i+j} \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{j=0}^{\infty} C_i x^i C_j x^j \\ &= x \left( \sum_{i=0}^{\infty} C_i x^i \right) \left( \sum_{j=0}^{\infty} C_j x^j \right) = x C(x)^2 \end{aligned}$$

3 得られた式を  $C(x)$  に関して解く

$$\begin{aligned} C(x) - 1 &= x C(x)^2 \\ x C(x)^2 - C(x) + 1 &= 0 \\ C(x) &= \frac{1 \pm \sqrt{1 - 4x}}{2x} \end{aligned}$$

どちらが正しいのか？

## カタラン数：母関数による解法 Step 3 (続き)

ここで、 $\lim_{x \rightarrow 0} C(x) = C_0 = 1$  なので、

▶  $C(x) = \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x}$  だとすると、

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \infty$$

となり、合わない

▶  $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$  だとすると、

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - (1 - 4x)}{2x(1 + \sqrt{1 - 4x})} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2}{1 + \sqrt{1 - 4x}} = 1$$

となり、合う

したがって、 $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$  である

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 41 / 63

## 母関数を用いた漸化式の解法

## 補題 (ティラー展開を使うことで証明できる (証明は省略))

任意の実数  $\alpha$  に対して、 $|z| < 1$  であるとき、

$$(1+z)^\alpha = \sum_{n=0}^{\infty} \binom{\alpha}{n} z^n$$

ただし、

$$\binom{\alpha}{n} = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \frac{\alpha(\alpha-1)(\alpha-2)\cdots(\alpha-n+1)}{n!} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

すなわち、 $\alpha = 1/2$ ,  $z = -4x$  とすれば、次が得られる

$$\sqrt{1-4x} = \sum_{n=0}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 43 / 63

## 整理

$$\begin{aligned} -\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n &= -\frac{1}{2} \frac{\frac{1}{2}(\frac{1}{2}-1)(\frac{1}{2}-2)\cdots(\frac{1}{2}-n+1)}{n!} (-4)^n \\ &= -\frac{1}{2} \frac{-2(-2+4)(-2+8)\cdots(-2+4n-4)}{n!} \\ &= \frac{2 \cdot 6 \cdots (4n-6)}{n!} = \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \frac{(n-1)!}{(n-1)!} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \frac{1 \cdot 2 \cdots (n-1)}{(n-1)!} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} \frac{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)}{(n-1)!} \\ &= \frac{(2n-2)!}{n!(n-1)!} = \frac{1}{n} \frac{(2n-2)!}{(n-1)!(n-1)!} = \frac{1}{n} \binom{2n-2}{n-1} \end{aligned}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 45 / 63

## カタラン数の上界と下界

## カタラン数の公式

任意の  $n \geq 0$  に対して

$$C_n = \frac{1}{n+1} \binom{2n}{n}$$

## 二項係数：簡単な評価 (復習)

任意の自然数  $a \geq 1$  と任意の自然数  $b \geq 1$  に対して、 $a \geq b$  であるとき、

$$\left(\frac{a}{b}\right)^b \leq \binom{a}{b} \leq \left(\frac{ea}{b}\right)^b$$

したがって、カタラン数に対する以下の上界と下界が得られる

$$\frac{2^n}{n+1} \leq C_n \leq \frac{(2e)^n}{n+1}$$

∴ カタラン数は  $n$  に関して指数関数的に増加する

## 母関数を用いた漸化式の解法 Step 3 (続き 2)

③ 得られた  $C(x)$  の級数展開を導く

$$\begin{aligned} C(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x} \\ xC(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2} \end{aligned}$$

ここで、 $C(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^n$  なので、

$$xC(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^{n+1} = \sum_{n=1}^{\infty} C_{n-1} x^n$$

つまり、 $xC(x)$  は次の数列  $\{a_n\}$  の母関数

$$a_n = \begin{cases} 0 & (n=0 \text{ のとき}) \\ C_{n-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

まずは、 $xC(x)$  の級数展開を導く

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 42 / 63

## 母関数を用いた漸化式の解法

$$\begin{aligned} \therefore xC(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2} \\ &= \frac{1}{2} \left( 1 - \sum_{n=0}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \right) \\ &= \frac{1}{2} \left( 1 - \left( 1 + \sum_{n=1}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \right) \right) \\ &= -\frac{1}{2} \sum_{n=1}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \left( -\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\text{任意の } n \geq 1 \text{ に対して } C_{n-1} = -\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 44 / 63

## まとめ

以上の議論より、任意の  $n \geq 1$  に対して、

$$C_{n-1} = \frac{1}{n} \binom{2n-2}{n-1}$$

つまり、次の公式が得られる

## カタラン数の公式

任意の  $n \geq 0$  に対して

$$C_n = \frac{1}{n+1} \binom{2n}{n}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 46 / 63

## 目次

① 母関数 (復習)

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ カタラン数：組合せの解釈

⑥ 今日のまとめ

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 47 / 63

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2017年11月7日 48 / 63

## カタラン数の組合せ的解釈



リチャード・スタンレイ

- ▶ MIT 数学科の教授
- ▶ 組合せ論の研究者（大家）
- ▶ カタラン数の組合せ的解釈を 214 個収集した

ここでは 2 つだけ紹介

[http://en.wikipedia.org/wiki/Richard\\_P.\\_Stanley](http://en.wikipedia.org/wiki/Richard_P._Stanley)

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

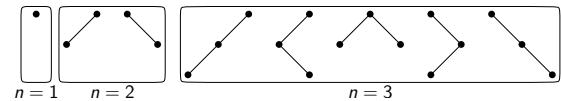
2017 年 11 月 7 日 49 / 63

## カタラン数の組合せ的解釈：二分木

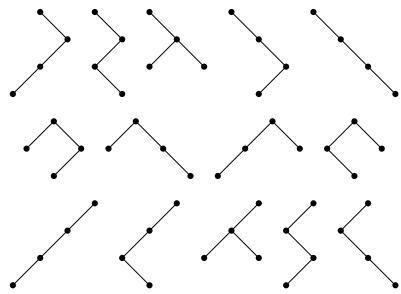
## 二分木とは？

頂点数  $n$  の二分木とは、次のように再帰的に定義されるグラフ

- ▶ 頂点数 0 の二分木は空グラフ（頂点を持たないグラフ）
- ▶ 頂点数 1 の二分木は根と呼ばれる 1 頂点から成るグラフ
- ▶ 頂点数  $n \geq 2$  の二分木は、根  $r$  と呼ばれる 1 頂点と、左部分木、右部分木と呼ばれる 2 つの二分木から成り、頂点数の総和は  $n$  であり、 $r$  と左部分木の根、 $r$  と右部分木の根を辺で結んだもの

 $n = 1$  $n = 2$  $n = 3$ 

## カタラン数の組合せ的解釈：二分木

 $n = 4$  のとき

## 目標

頂点数  $n$  の二分木の総数  $T_n$  の満たす漸化式を導く

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

2017 年 11 月 7 日 51 / 63

## カタラン数の組合せ的解釈：二分木の総数が満たす漸化式

 $T_n$  が満たす漸化式

$$T_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \sum_{i=0}^{n-1} T_i T_{n-i-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

証明 :  $n \geq 1$  のとき,

- ▶ 左部分木の頂点数 + 右部分木の頂点数 =  $n - 1$
- ▶ 左部分木の頂点数を  $i$  とすると、 $i \in \{0, \dots, n-1\}$  で、右部分木の頂点数は  $n - i - 1$
- ▶ このとき、左部分木は  $T_i$  通り、右部分木は  $T_{n-i-1}$  通りの可能性  $\square$

## 結論

頂点数  $n$  の二分木の総数は第  $n$  カタラン数  $C_n$  と等しい

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

2017 年 11 月 7 日 52 / 63

## Walther von Dyck

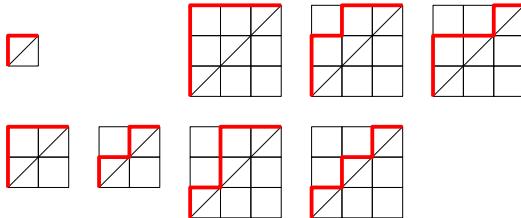
ディック  
(1856–1934)

[http://www-history.mcs.st-andrews.ac.uk/Biographies/Von\\_Dyck.html](http://www-history.mcs.st-andrews.ac.uk/Biographies/Von_Dyck.html)

## カタラン数の組合せ的解釈：ディック道

## ディック道 (Dyck path) とは？

ディック道とは、 $(0, 0)$  から  $(n, n)$  へ至る格子道で、直線  $y = x$  の下側を通らないもの

 $D_n = (0, 0)$  から  $(n, n)$  へ至るディック道の総数

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

2017 年 11 月 7 日 53 / 63

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

2017 年 11 月 7 日 54 / 63

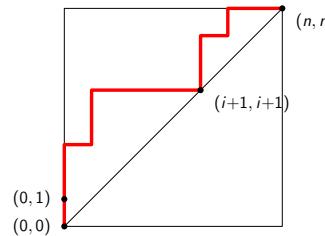
## カタラン数の組合せ的解釈：ディック道の総数が満たす漸化式

## ディック道の総数が満たす漸化式

$$D_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \sum_{i=0}^{n-1} D_i D_{n-i-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

証明 :  $n \geq 1$  のとき

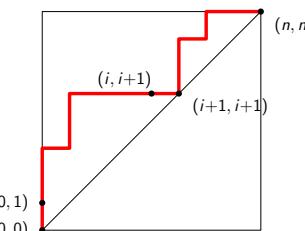
- ▶ 「はじめの一歩」は必ず「上」
- ▶  $(0, 0)$  の他に、はじめて直線  $y = x$  上に来るときを考える
- ▶ その点を  $(i+1, i+1)$  とする ( $i \in \{0, \dots, n-1\}$ )



## カタラン数の組合せ的解釈：ディック道の総数が満たす漸化式

## 証明 (続き) :

- ▶  $(i+1, i+1)$  に来る直前に、必ず  $(i, i+1)$  にいる
- ▶ つまり、考えているディック道は以下の形をしている
  - ①  $(0, 0)$  から  $(0, 1)$  に至る
  - ②  $(0, 1)$  から  $(i, i+1)$  に至る
  - ③  $(i, i+1)$  から  $(i+1, i+1)$  に至る
  - ④  $(i+1, i+1)$  から  $(n, n)$  に至る

 $(\leftarrow 1 \text{ 通り})$  $(\leftarrow 1 \text{ 通り})$ 

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

2017 年 11 月 7 日 55 / 63

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学 (4)

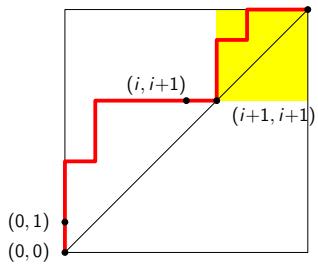
2017 年 11 月 7 日 56 / 63

証明(続き)：

④  $(i+1, i+1)$  から  $(n, n)$  に至るこの間に  $y = x$  より下に行かないで、

$$\boxed{\text{このような}} \quad = \boxed{(0,0) \text{ から } (n-i-1, n-i-1) \text{ に至る}} = \boxed{D_{n-i-1}}$$

経路の総数      ディック道の総数



証明(続き)：

- ▶  $(i+1, i+1)$  に来る直前に、必ず  $(i, i+1)$  にいる
- ▶ つまり、考えているディック道は以下の形をしている

- |                                  |                                    |
|----------------------------------|------------------------------------|
| ① $(0,0)$ から $(0,1)$ に至る         | $(\leftarrow 1 \text{通り})$         |
| ② $(0,1)$ から $(i, i+1)$ に至る      | $(\leftarrow D_i \text{通り})$       |
| ③ $(i, i+1)$ から $(i+1, i+1)$ に至る | $(\leftarrow 1 \text{通り})$         |
| ④ $(i+1, i+1)$ から $(n, n)$ に至る   | $(\leftarrow D_{n-i-1} \text{通り})$ |

したがって、 $D_n = \sum_{i=0}^{n-1} D_i D_{n-i-1}$  □

## 結論

(0,0) から  $(n, n)$  へ至るディック道の総数は第  $n$  カタラン数  $C_n$  に等しい

## 今日の目標

### 今日の目標

母関数を用いて漸化式を解けるようになる

- ▶ 線形漸化式の解法
- ▶ カタラン数

## 注意

今日扱ったのは、母関数に関する初步

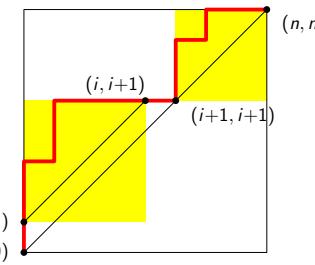
- ▶ 母関数にまつわる理論は膨大
  - ▶ 近年では「解析的組合せ論」という分野に成長
- そこでは、『複素関数論』が重要な役割を果たす

証明(続き)：

②  $(0,1)$  から  $(i, i+1)$  に至るこの間に  $y = x$  上に来ないので、

$$\boxed{\text{このような}} \quad = \boxed{(0,0) \text{ から } (i, i) \text{ に至る}} = \boxed{D_i}$$

経路の総数      ディック道の総数



## 目次

① 母関数 (復習)

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ カタラン数：組合せ的解釈

⑥ 今日のまとめ

## 残った時間の使い方

- ▶ 演習問題をやる
  - ▶ 相談推奨 (ひとりでやらない)
- ▶ 質問をする
  - ▶ 教員と TA は巡回
- ▶ 退室時、小さな紙に感想などを書いて提出する ← 重要
  - ▶ 内容は何でも OK
  - ▶ 匿名で OK